

パブリック・サービス研究分科会 10 月 「図書館力」研究グループ報告書	
日時	2010 年 10 月 21 日(木)
場所	東洋英和女学院大学
記録	池上 (東洋英和女学院大学)
参加者	阿部 (早稲田大学)、池上 (東洋英和女学院大学)、市川 (法政大学)、武藤 (中央学院大学)
欠席者	菅原 (中央大学)、田中 (山梨英和大学)

作業内容

- ① 各自持ち寄った参考資料をもとに自由発言
 - ・図書館と教育・学習支援・利用者教育・コレクション構築・ラーニングcommons・学習成果等をキーワードに文献検索を行った。これらの文献について、図書館員は読むが図書館員以外の人は読まないの、図書館のことはもっと図書館員が広めていく必要がある。
 - ・図書館は「汎用的技能」を教えることができる場であるのに、文部科学省「学士課程教育の構築に向けて (審議のまとめ)」のなかで「図書館」という言葉が出てくるのは p35 の 1 回だけである。
 - ・法政大学リエゾン・ライブラリアン、学習環境支援センターの事例について。

- ② グループメンバーの所属大学の事例について意見交換
 - ・コレクションビルディング：カリキュラムとリンクしているか？
法政：シラバス指定図書を購入している。
中央学院：特にしていない。
早稲田：学部ごとにある学生読書室がリザーブ図書に当たる。また、学生の図書委員で選書した資料が学生読書室にて所蔵される。
東洋英和：教員から提出されるリザーブ図書リストをもとにリザーブ図書を準備する。(図書館 1F にリザーブ図書コーナーがある。) web シラバスから OPAC へのリンクがある。
 - ・オリエンテーション・ガイダンスについて
早稲田：助手・助教が学部生にオリエンテーションを行うことがある。また、図書館側がゼミのリーダーに教えて、ゼミ生に伝えてもらうこともある。
法政：ゼミサポート制。

- ③ 今後の方針について意見調整。
 - ・図書館が行っていることは学内他部署ではあまり知られていない。直接、学内教職員に向けてアピールをすることも必要だが、そこには高い壁がある。
そのため、別の方法として、大学運営に多大な影響力を及ぼす文部科学省の発言に図書館の重要性が盛り込まれるよう「学士課程教育の構築に向けて (審議のまとめ)」を土台に、実際には図書館がどう関わるができるのか考察をしたい。その際、他大学で行っている事例が有効な根拠となるため、事例を収集していきたい。
 - ・結果的には「学士力」を「図書館力」へと換言できるような運びにしたい。
 - ・日本では大学における大学図書館の地位があまり高くないように感じるが、米国ではどうか比較をしたい。

次回までの課題

- ・「学士課程教育の構築に向けて (審議のまとめ)」を各自熟読する。
- ・参考資料を収集する。

(以上)